

本町初のラジオ局「FMおおさき」は、昨年3月21日(月)に開局し、コミュニティFMとして、大崎町に密着した放送をおこなっています。また、町と災害時等における緊急放送に関する協定を締結しており、昨年9月に大型の台風14号が接近した際には、地域防災メディアとして、リスナーに台風時の備えや避難場所開設の情報などを届けました。今回、代表取締役の水江里子さんにお話を伺いました。

いま 地域の今を伝える

－コミュニティFM・地域防災メディアとしての役割

コミュニティFMとは何ですか。

水 皆さんがよく知っていらっしゃる商業や音楽を中心とした放送局とは違い、まちを元気にするため、平成4年に制度化された比較的新しい放送局です。地域に密着した情報を通じて、地域の振興や公共の福祉の増進に寄与することを目的としています。

事前に収録して放送したり他局の番組を購入して放送したりと、放送の形態はさまざまありますが、FMおおさきはすべて生放送で放送しているようですね。生放送にこだわる理由は何ですか。

水 情報は生き物で、新しいからこそ良いと考えます。録音したものは録音した時点で古いものになってしまう。大崎町に住んでいる方が生活の中で必要な情報を旬の状態でお伝えすることが、私たちの役割です。生放送だと緊急な情報も臨機応変に対応できます。

どのような情報を発信していますか。

水 加盟店のお店情報や町内のイベント情報、お役立ち情報、開花状況など、聞いて得る情報を発信するように心がけています。災害など緊急時には、防災放送に切り替え、延長放送をおこなっています。

地域防災メディアとしての役割をどのように考えていますか。

水 台風や大雨の危険が近づいている際には避難を促す放送などを、災害後には復旧などの情報を集めてお伝えすることですね。でもうちの局は命を懸けてまでは放送しません。スタッフには、とにかく自分の命を最優先するように伝えています。

災害時に危険な状態でスタジオに向かい放送するよりも、日頃から防災に対する心構えや啓発が何より大

